2026 年度 JSCE2025 運営企画会議

DX 推進 WG　第 2 回　議事録

日時：2026 年 10 月 23 日（金）10:00〜12:00

場所：土木学会 F 会議室＋Zoom（ハイブリッド開催）

出席者：小澤会長、熊本次期会長、吉岡理事、小林オブザーバー（対面）、
加藤理事、財津理事、寺田理事（オンライン）
事務局：三輪専務理事、岩西次長（システム改修チーム）、中島

資料：

- 2-1　2-1_JSCE2025 運営企画会議 WG 構成
- 2-2　2026 年度第 1 回 DX 推進 WG_議事録
- 2-3　事務局システム改修（システム更新推進室）
- 2-4　各支部からの意見まとめ（会員・支部部門調査より抜粋）
- 2-5　部門からの提案事項
（調査研究、コミュニケーション、情報資料、総務、会員・支部）

参考資料

- 学会誌 10 月号　座談会
- JSCE2025 運営企画会議_議事録（第 1 回・第 2 回）
- システム改修チーム構成
- JSCE2025 に関連する各支部からの意見まとめ（会員支部部門）

主な確認事項　基幹システムの改修案と各部門・支部のニーズを照合し、対象範囲、連携・統合の考え方、データの流れ及び工程を整理する。寄せられた意見を一次整理して次回 WG で具体的に議論する。生成 AI による情報活用は、公開方針・著作権等と併せて検討する。

1. 事務局システムの改修計画について

（1）前回議事録の確認

- 前回議事録の基幹システム更新に関する費用の記載、特に運用費について訂正の指摘があり、該当箇所を確認・修正することとした。

（2）改修案及び工程の説明

- システム改修チームから資料 2-3 に基づき説明があった。

- 長期間使用している基幹システムの老朽化、サーバーOS の更新・サポート期限、セキュリティリスク等への対応として、システム更新と各種データのクラウド化を進める。
- 情報が多く見づらいとの指摘を踏まえ、ウェブサイトの構成も見直す。
- 会員管理と委員会名簿管理のデータベース統合、会員・非会員の情報集約、マイページでの活動履歴等の確認、スマートフォン対応、決済方法の統一及びシングルサインオン等が説明された。行事受付、図書販売、総合支払、請求・入金管理等を段階的に更新し、改修対象外のシステムや外部パッケージ等との連携も検討する。
- 現行サーバーの保守延長は、現時点では 2028 年 10 月末までの対応を前提とし、それ以降は確約されていない。
- クラウドの利用開始、データ移行、各システムの切替及び現行サーバーの停止を区別し、後続フェーズを含めて工程を整理する必要がある。

- 工程表には、委員会名簿管理等の配置・フェーズの記載に誤りがあり、事務局が修正して再配付することとした。後続フェーズの内容や金額は参考的な検討段階であることも説明された。

（3）主な意見及び検討課題

- 改修するシステム、改修せず連携するシステム、外部システムの区分及びデータの所在が分かりにくい。全体計画では、支部サイトや学会が蓄積してきたアーカイブ等も視野に入れ、今回の対象範囲と将来の連携・統合の可能性を示す必要がある。
  - 本資料は意見照会用であり、未決の項目を実施事項として記載されていないとの説明があった。一方、対象外・後続検討とする事項を関係者に分かる形で整理し、全体像の認識のずれを避けるべきとの意見もあった。
- 支部サイト等も同一のクラウドに統合することで利便性が高まるのであれば、費用を踏まえ統合も検討してはどうか。
  - 連携・統合の具体的な方式及び実施時期は、引き続き検討する。
- 全国大会システムは会員データを Excel・CSV 等で取り込んでおり、会員情報の変更がリアルタイムで反映される仕組みではない。必要な更新頻度、取得・保持する会員属性や履歴の範囲を、利用目的及び個人情報の取扱いを踏まえて整理する必要がある。

- CPD については、行事申込み・参加、単位の反映・蓄積、資格更新までを利用者の一連の流れとして示し、会員管理、行事受付及び委員会出欠情報等の関係を明らかにすべき。
    - 会員の利便性とともに、事務局・支部の重複入力や作業工数の削減も検討する。
- ホームページの見た目の改修に留まらず、チャットボット等で質問・問合せから利用者の求める情報が得られる仕組みを検討してはどうか。

（4）今後の進め方

- 意見照会は 10 月末を締切りとしており、追加の意見もできるだけ早期に提出するよう、システム改修チームからの求めがあった。
- システム改修チームは、11 月中に本 WG 及び各部門・支部からの意見を一次整理し、改修に取り込む事項と別途検討する事項を整理する。整理結果は 12 月からの全体計画作成等に向けた事業者との協議につなげる。
- システム改修チームは、次回 WG で改修箇所、対象範囲及びニーズとの対応関係についてより具体的な議論ができるよう準備する。

2. 各部門における DX ニーズについて

（1）コミュニケーション部門

- 財津理事からは、これまでの広報活動の検証や目的・内容の見直しとともに、学会内外への活動の可視化と、報告書・学会誌・論文集等の専門的知識を生成 AI や検索エンジンで活用しやすくする整備がニーズとして示された。
- 小澤会長から小松広報センター長が提案している構想が紹介され、後ほどメンバーに資料が共有することとした。
- コミュニケーション部門として、生成 AI が学会サイトの情報を正確に読み取り、出典として提示できる一次情報源に改める取組に着手し、予算を要しない改善は 2026 年度内、一次情報・蔵書の整備は 2027 年度に進める案が紹介された。
- 他部門とも関わり、正本の所在、記事・論文の書誌情報の機械可読化、著作権・AI 利用条件及び情報の公開範囲を一体的に整理する必要がある。
    - 小松広報センター長に次回以降の WG への参加を依頼し、コミュニケーション部門と WG で議論を具体化することとした。

（2）会員・支部部門

- 吉岡理事から、支部の事務処理を効率化する観点から、本部システム改修への具体的な要望を各支部に求める方針が説明された。
- システム改修チームから、各支部からのシステム改修に関わる具体的な要望は 11 月中に提示されるよう求められた。

（3）調査研究部門及び出版・情報資料関係

- 寺田理事からは、調査研究部門では DX の動向を話題にしているが、具体的な議論はまだ深まっていないとの報告があった。
- 加藤理事からは、部門内での意見集約はこれからであり、現時点の基幹システム改修と出版・情報資料の通常業務との直接的な関係は限定的との認識が示された。また、ウェブサイトの見た目の改善だけでなく、チャットボット等によって利用者を必要な情報へ誘導する方法が有効ではないかとの提案があった。

3. その他

（1）予算上の取扱い

- 寺田委員から、DX に関わる取組が部門の活動計画・予算に含まれていない場合、基幹システム改修の予算で扱うのか、各部門で計上するのかとの質問があった。
    - 基幹システム改修の費用は一般管理費として計上する。
    - それを超える新規の DX 施策は 2027 年度の新規事業等として予算要求することを含め、所管・費用負担・予算上の扱いを整理することとなった。

（2）セキュリティ対策及び運用体制

- 小林オブザーバーから政府からの不正アクセス対応に関する通知等が紹介された。
    - システム改修においては、古いソフトウェア・システムの脆弱性への対応に加え、サプライチェーンを通じた侵害を想定し、委託先や各部門に分散するシステムを含めて、平時の管理と障害・侵害時の連絡・対応体制を整理する必要がある。
    - 個人情報を扱う学会として、技術的な対策だけでなく運用体制も要件定義で検討する必要がある。

（3）その他

- 三輪専務から、PHP 問題に関して本部関係は問題なし又は対応済み、支部は対応中であり、委員会が個別に運営するウェブサイトについては、確認・対応を依頼する準備を進めているとの説明があった。

（4）次回 WG

- 次回は 2026 年 11 月 16 日（月）10:00 から開催する。基幹システム改修への具体的な要望とその取扱い、AI 活用を含むウェブ情報の整備等について議論する。

対応事項

No	担当	対応内容	時期
1	**事務局**	前回議事録の費用記載及び改修工程表の誤記・配置を確認・修正し、修正資料を再配付する。	速やかに
2	**各委員・各部門**	基幹システム改修に関するニーズ、課題及び必要機能を整理し、追加意見を含めて提出する。	10 月末を基本 追加は早期に
3	**会員・支部部門 各支部**	支部の事務処理効率化に資する具体的な要望を取りまとめ、改修計画への反映に向けて提示する。	11 月中を目途
4	**システム改修 チーム**	WG・各部門・支部の意見を一次整理し、対象範囲、連携・統合及び工程との対応を示す。	次回 WG までに 一次整理
5	**WG・事務局 コミュニケーション部門**	小松広報センター長の次回以降の参加を調整し、AI 活用、公開方針及び権利関係の検討を具体化する。	次回以降